

研究主題

主体的に進路を切り拓いていく力を育む道德教育

要約: よりよい進路を選択するには、判断力が必要である。本研究では、「判断のもと=価値観」と捉え、道德教育を基盤にして、主体的に進路を切り拓いていく力を育むことにした。まず、「主体的に進路を切り拓いていくために必要な価値観」の調査方法を開発し、それをもとに中学生及び小学校高学年の実態を明らかにした。その実態をもとに、中学校と小学校において、キャリア教育と関連させた道德教育の実践を試みた。具体的には、「キャリア教育(職場体験)と道德の時間を関連付けた単元設計」、「学びの意義を実感させる指導の工夫」、「自尊感情を育む指導の工夫」に着目した指導を行った。その結果、小学生、中学生の両方において、「価値観」の高まりが認められ、キャリア教育と関連させた道德教育の有効性を明らかにすることができた。また、その関連を考慮した効果的な指導のあり方について考えを深めることができた。

キーワード: 進路選択 判断力 価値観 道德教育(道德の時間) キャリア教育 職場体験(見学) 自尊感情

I 主題設定の理由

1 研究の背景

悪質な情報、犯罪の多発、犯罪の凶悪化、自殺の増加、ニートやフリーターの増加など、世の中の乱れは著しく、現在、日本が抱えている問題は、非常に多く深刻であるといえる。同じように、学級崩壊、いじめ問題、ひきこもり、不登校の増加、自立の遅れ、学力の低下、犯罪の低年齢化など、子どもの実態にも深刻な問題がみられる。

このような現状に危機感を感じた政府は、平成15年6月に、国家プロジェクトとして「若者自立挑戦プラン」を発表した。その政策の一つとしてあげられたのが、「キャリア教育」である。そのプランの中で、「キャリア教育」とは、児童生徒一人一人の職業観・勤労観を育てる教育であり、小学校段階からの組織的・系統的な指導が必要であると説明されている。

以上のような社会的背景から、主体的に進路を切り拓いていく力の育成が急務であると考え、研究主題を設定した。

2 主体的に進路を切り拓いていくために

まず、主体的に進路を切り拓いていくためには、どのような力が必要なのか考えてみることにした。人は、日々選択を繰り返しながら生きている。様々な条件を考え、目の前にあるいくつかの選択肢の中から進むべき進路を決定し、行動をおこす。その進路選択の積み重ねが、その人のキャリア(生きてきた軌跡)になっていく。日々の小さな選択から、人生を決定するような選択まで、その選択の仕方によって、自分の望みを達成できるかどうかが決まるといっても過言ではない。

このようなことから、本研究では、主体的に進路を切り拓いていくためには、「自分の意志でよりよい進路を選択する力」の育成が必要であると考えた。

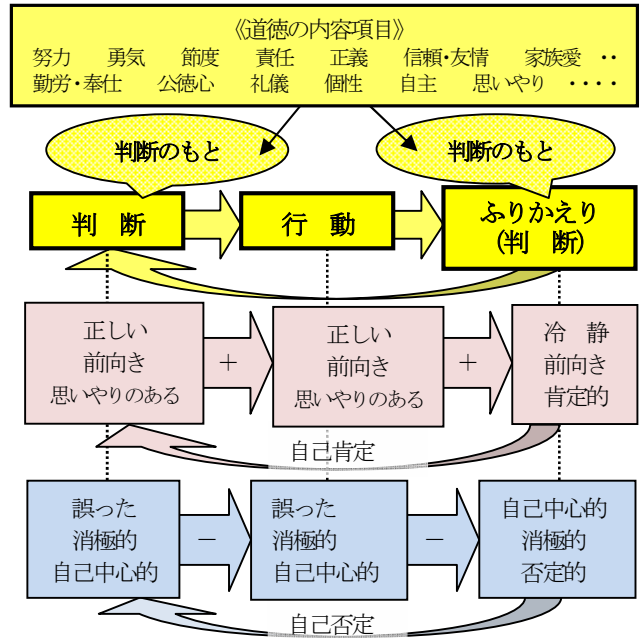
3 道德教育を基盤として

本研究では、道德教育を基盤にし、その実践を通して主題に迫ることとした。理由は、以下の通りである。

人は、進路を選択する際、図表1のように、「判断→行動→ふりかえり(判断)」の過程を辿ると考えた。そして、判断する

際は、自分の中にある「判断のもと=価値観」に照らし合わせて、自分なりの決定を下し、行動を起こしたり自己をふり返ったりする。「プラスのサイクル」に入れば、それをくり返すことによって自己肯定感が高まる。その結果として、自立、自己実現が可能となる。しかし逆に「マイナスのサイクル」に入れば、それをくり返すことによって自己否定が生まれ、負の相乗作用が発生する。現在、問題となっているニート、引きこもり、不登校、自殺等という不適応は、このマイナスのスパイラルに陥った結果ではないかと考えた。

図表1 進路選択の意識過程及び道德教育との関係



このように考えると、「何をもとに判断するか」という「もと」の部分、進路選択(人生)を大きく左右するといえる。この「判断のもと」を育てるという視点で、現在の教育課程を見渡した場合、一番関わりが大きいのは、「道德の内容項目(価値)」であると考え、道德教育を基盤にすることにした。

以上のことから、本研究では、道德の時間において「判断のもととなる価値観」を育て、キャリア教育(体験)との効果的な関連を図ることで、研究主題に迫ることとした。

## II 研究の目的

小学校高学年及び中学生において、主体的に進路を切り拓いていく力を育むために、キャリア教育と関連させた道徳教育の実践を行い、その有効性及び効果的な指導方法について明らかにする。

## III 研究の方法

1. 主体的に進路を切り拓いていくために必要な価値観を明らかにし、その調査方法を開発する。また、その有効性を探る。
2. 小学校高学年及び中学生において、主体的に進路を切り拓いていくために必要な価値観調査を実施し、その実態を明らかにする。
3. 中学校2年生及び小学校高学年において、以下の二つの点に着目し、「キャリア教育と関連させた道徳教育」の実践を行う。判断のもととなる価値観、及び自尊感情の高まりを検証することで、その有効性について明らかにする。
  - ① キャリア教育と関連させた単元を設計し、実践を行う。実践を通して、単元構成の有効性を明らかにするとともに、「道徳の時間」と「キャリア教育」との効果的な関連について探る。
  - ② 授業の中に、キャリア教育と関連させた二つの指導の工夫（学びの意義を実感させる指導の工夫・自尊感情を育む指導の工夫）を設定し、その有効性について探る。

**《学びの意義を実感させる指導の工夫》**

- ◆働くことと関連している道徳の資料の選定
- ◆働くことと関連付けた「学びが生きる場」の提示
- ◆道徳通信をもとにした事後指導

**《自尊感情を育む指導の工夫》**

- ◆友達同士の認め合いによる価値の一般化、自覚化
- ◆共感しやすい発問の設定
- ◆自分の個性、よさを理解する場の設定
- ◆他者からの愛情を実感する場の設定
- ◆教師の肯定的な言葉かけ  
(認める・励ます・価値付ける)

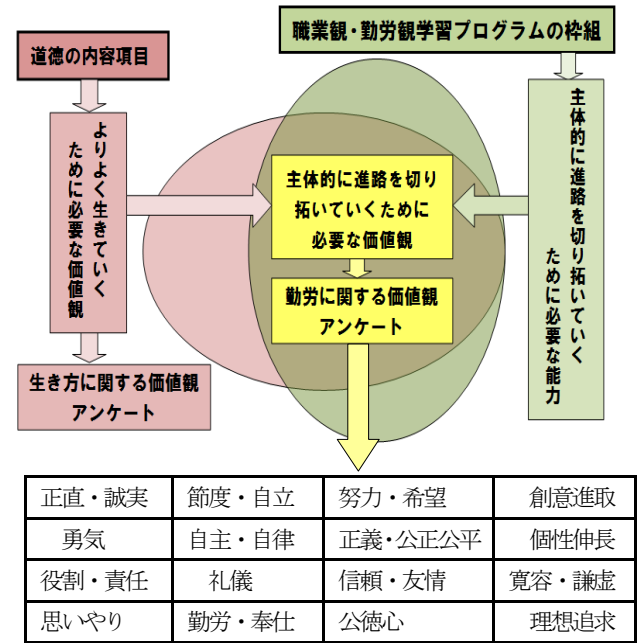
## IV 研究の内容

### 1 調査方法の開発及び実態調査

#### (1) 価値観の調査方法の開発

「勤労観・職業観を育む学習プログラムの枠組み」(国立教育政策研究所)に記載されている「職業的(進路)発達にかかわる諸能力」(4領域8能力)と「小学校(中学校)学習指導要領解説—道徳編—」に記載されている「道徳の内容項目」との関係を整理した。その結果をもとに、「主体的に進路を切り拓いていくために必要な価値観」を選定し、それを参考に「勤労に関する価値観アンケート」を作成した。また、「生き方に関する価値観アンケート」(以下、「生き方アンケート」とする。)も作成した。(図表2)

図表2 価値観調査の内容及び方法

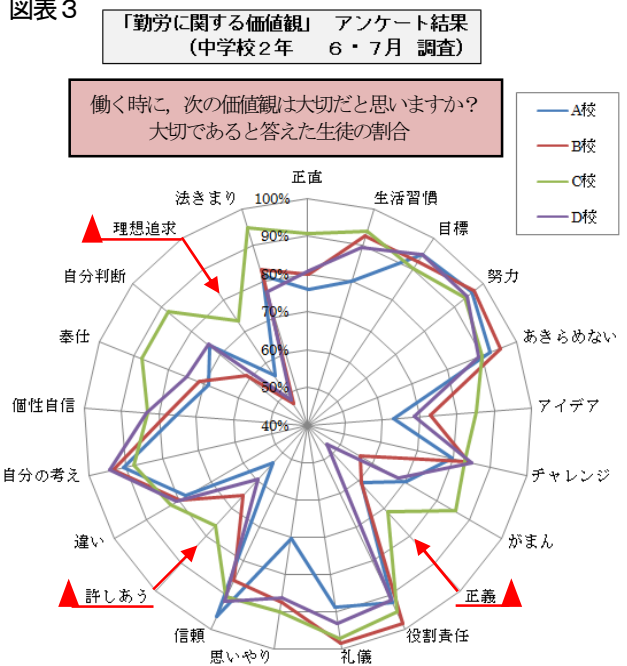


### (2) 調査結果

#### ①中学生の実態

作成した「勤労に関する価値観アンケート」をもとに、中学生の価値観の実態を調査した。対象は、県内4つの中学校(加賀地区2校、金沢地区1校、能登地区1校)2年生374名とした。調査の結果、4校ともに「正義」、「理想の追求」、「許しあう」という価値観が低い(働く時のその価値観は大切であると答えた生徒の割合が70%以下である)という実態が明らかになった。(図表3) この3つの価値観は、「生き方アンケート」においても低かった。

図表3

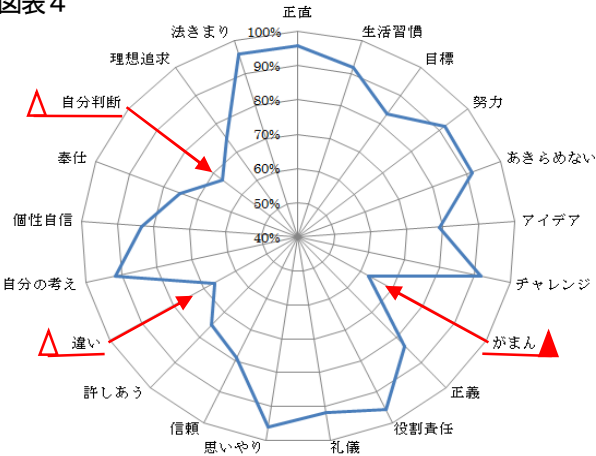


## ②小学生の実態

中学生と同様に、小学生においても、「勤労に関する価値観」の実態調査を実施した。対象は、小松市立D小学校5年生（24名）とした。その結果、「がまん」、「違いを認める」、「自分で判断する」という3つの価値観が低いという実態が明らかになった。（図表4）「がまん」は、「生き方アンケート」においても低かった。

「勤労に関する価値観」アンケート結果  
（小学校5年生・10月調査）

図表4



## 2 授業実践

### (1) 単元設計

道徳の授業において、「①ねらいとする価値」「②道徳資料」「③実践する時期」を設定する際、以下のことに留意した。

- ◆実態・発達段階を考慮する。
- ◆キャリア教育(総合的な学習の時間)との関わりを考慮する。

これをもとに、中学校（A校・B校）において、3時間の道徳の授業（図表5）を選定した。そして職場体験との関連を考慮して時期を決定した。効果的な関連を探るため、A校とB校では単元構成を変えて実践することとした。

小学校においては、「総合的な学習の時間」と「道徳の時間（5時間）」を関連させた単元『キャリア教育学習プログラム』を作成し実践することとした。（図表6）

### (2) 指導の工夫

前述した「学びの意義を実感させる指導の工夫」及び「自尊感情を育む指導の工夫」をもとに、1時間毎の授業を設計し実践することとした。

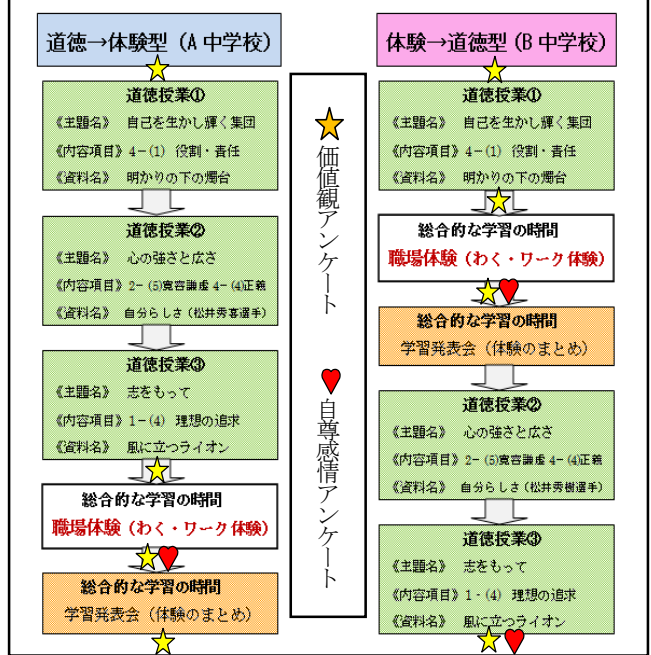
### (3) 分析方法

価値観については、「勤労に関する価値観アンケート」をもとに分析した。その価値観が大切であると答えた生徒の割合（以下、「割合」とする）に着目することとした。実践前の実態については、前述のとおりである。実践途中、実践後にもアンケートを実施（図表5.6）し、「割合」の変化を調べ、カイ二乗検定により検証した。「生き方に関する価値観アンケート」については、検定は行わず結果のみを参考にした。

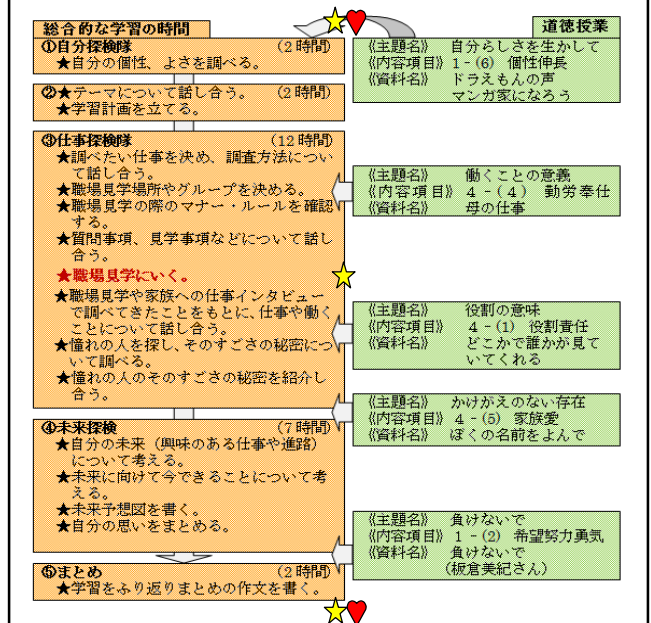
自尊感情については、ローゼンバーグ、ハーター、ホープらの尺度を用いたアンケートをもとに分析した。実践前後の点数を対応のあるt検定により検証した。

尚、定着した心の在り様を調べるため、アンケートは、授業実践終了から10日後に実施することとした。

図表5 中学校における実践



図表6 小学校における実践



## (4) 結果及び考察

### ① 中学校の実践の有効性

#### ア 職場体験後の価値観の変化

実践前と職場体験後の「割合」の比較を行った。

◇4つの中学校の生徒では、21の項目のうち、19の項目で「割合」が増加した。価値観全体に対する「割合」も1.7%上昇した。検定の結果、2つの価値観（正直、許しあう）において有意差が認められた。（図表7）

◇道徳授業実践を行った2校の生徒（n=117）を抽出して同じ分析を行った。この場合では、価値観全体に対する「割合」が6.3%上昇していた。検定の結果、5つの価値観（正直、正義、許しあう、奉仕、理想追求）において有意差が認められた。そのうち4つの価値観（下線部）は、道徳の授業で学習した価値観であった。（図表8）

図表7【4校】

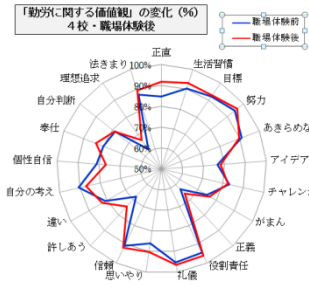
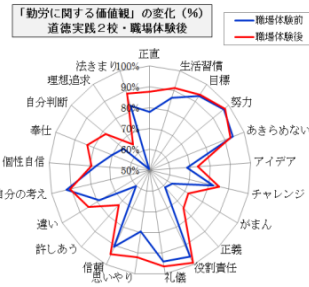


表8【道徳授業実践2校】



◆以上のことから、職場体験は、価値観の育成に有効であること、また、職場体験と関連させた道徳授業実践を行うことで、職場体験後の価値観がさらに高まるということが明らかになった。「生き方についての価値観」もほぼ同じ傾向を示した。このことから、本研究における道徳の授業の設定及び指導の工夫は、価値観の育成に有効であると考えられる。

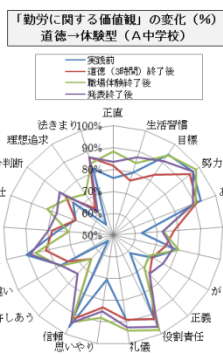
### イ 単元設計による価値観の変化

実践前と単元終了後の「割合」の比較を行った。

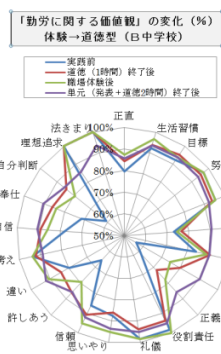
◇職場体験前のみ道徳授業を実践したA中学校 (n=54) では、単元終了後に価値観全体に対する「割合」が、10.1%上昇した。検定の結果、1つの価値観（許しあう）において有意差が認められた。（図表9）この価値観（下線部）は、道徳の授業で学習した価値観であった。

◇体験前と体験後に道徳授業を実践したB中学校 (n=66) では、単元終了後に価値観全体に対する「割合」が、10.7%上昇した。検定の結果、8つの価値観（アイデアを出す、がまん、正義、許しあう、違いを認める、奉仕、自分で判断、理想追求）において有意差が認められた。うち4つの価値観（下線部）は、道徳の授業で学習した価値観であった。（図表10）

図表9【体験前のみ道徳】



図表10【体験前後に道徳】



◆以上のことから、職場体験後に道徳の授業を設定することは、価値観の育成に有効であると考えられる。

### ウ 自尊感情の変化

◇B中学校の生徒 (n=66) でのみ、職場体験後と単元終了後に自尊感情アンケートを実施した。結果、平均点に高まりは見られたが、有意な差は認められなかった。

◆以上のことから、自尊感情を育てる指導の工夫の有効性を確かめることはできなかった。この原因として、①発達段階による低下②価値観の高まり③日々の指導（認める、励ます、価値付ける）の不足があったと推察され、今後、改善が必要であると考えられる。

## ② 小学校の実践の有効性

### ア 価値観の変化

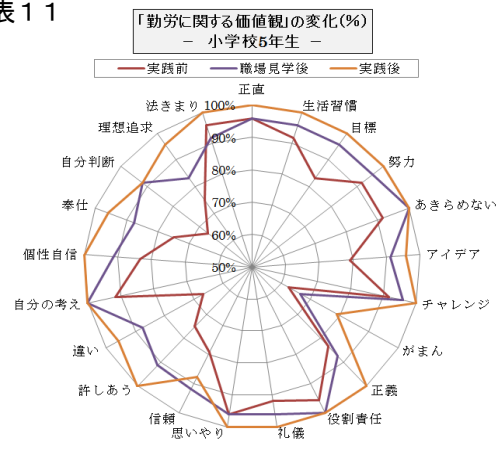
『キャリア教育学習プログラム』において、実践前、職場見学後、単元終了後の「割合」の比較を行った。

◇職場見学後では、価値観全体に対する「割合」が8%上昇した。そこから単元終了後までに、更に5%上昇した。「生き方に関する価値観」も同じような上昇を示した。

◇単元前後の割合を検証した結果、7つの価値観（許しあう、違いを認める、目標をもつ、正義、奉仕、自分で判断、理想追求）において有意差が認められた。うち3つの価値観（下線部）は、道徳の授業で学習した価値観であった。（図表11）

◆以上のことから、『キャリア教育学習プログラム』をもとにした指導は、価値観の育成に有効であると考えられる。

図表11



### イ 自尊感情の変化

◆単元終了前後の点数を検証したところ、平均点に高まりは見られたが、有意差は認められず、有効性を確認できなかった。

## V 結論

- 1 「勤労に関する価値観アンケート」及び「生き方に関する価値観アンケート」は、児童・生徒の価値観の実態を把握するための調査方法として有効である。
- 2 中学校2年生においては、「正義」、「許しあう」、「理想追求」という3つの価値観が低い傾向にある。
- 3 「道徳の時間とキャリア教育（体験）と関連させた単元構成」は、主体的に進路を切り拓いていく力を育てるのに、小・中学生ともに有効である。中学校の職場体験においては、体験後に道徳授業を設定する単元構成がより有効である。
- 4 キャリア教育と関連させた道徳教育における指導の工夫は、価値観を育成することにおいては、小・中学生ともに有効である。しかし、自尊感情を育てることにおいては、有効であるとはいえない。

## VI 今後の課題

- 1 価値観の実態調査を実践し、それをもとに、道徳教育とキャリア教育の効果的な関連の図り方について、更に検証を重ねる。
- 2 「自尊感情を育てる指導」の改善を行い、その実践を通して、効果的な指導方法を明らかにする。
- 3 小・中の発達段階に応じた指導及び連携のあり方を探る。